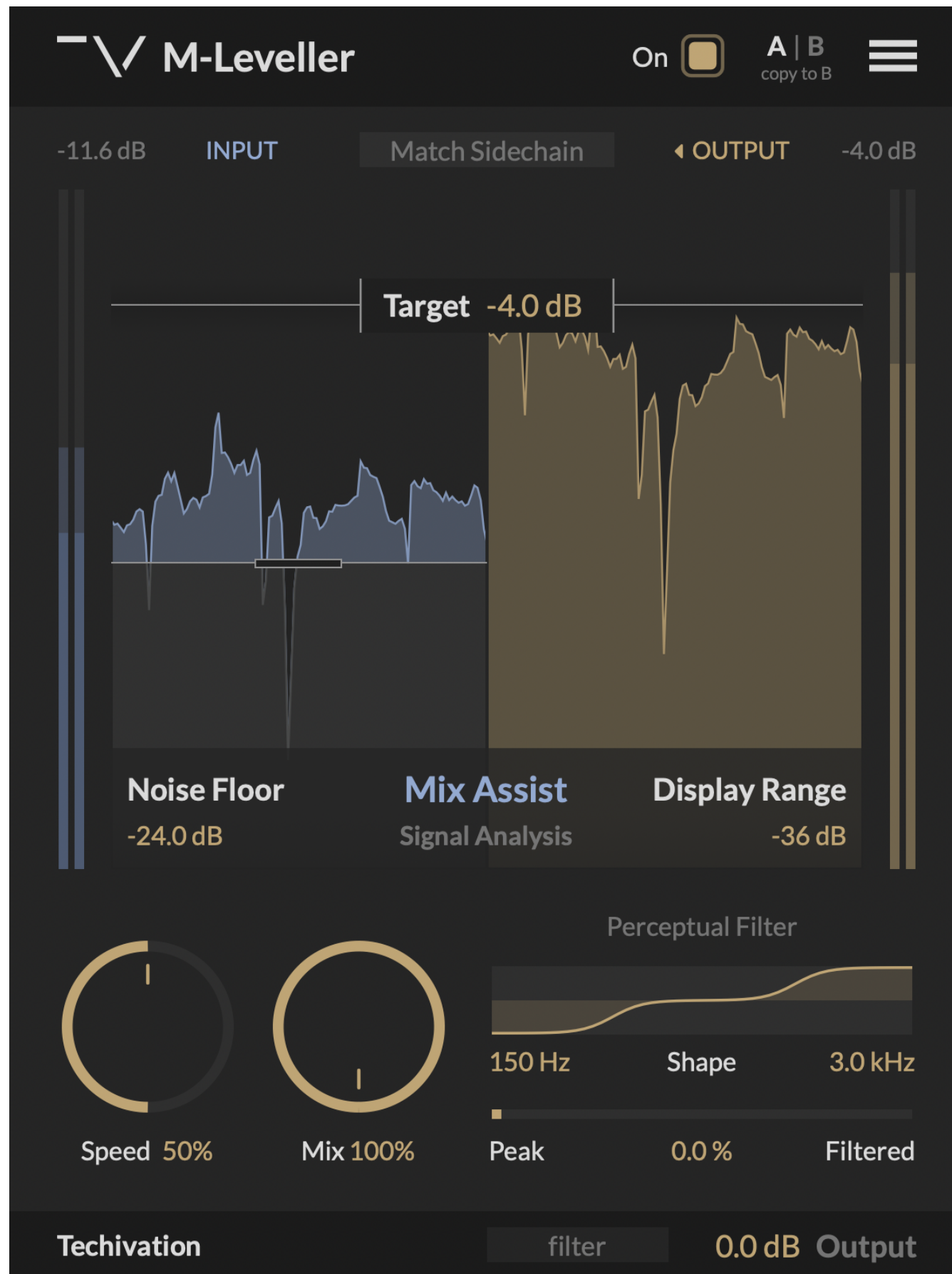


Techivation M-Leveller

ユーザーマニュアル



Techivation M-Leveller

概要

M-Leveller Mixはインテリジェントなイベントベースのボリュームオートメーションプラグインです。コンプレッションを使用した場合では実現不可能な、超人的な精度と透明度で一貫したレベルを提供します。

M-Leveller Mixは、個々の音や音楽フレーズ全体のようなイベントを識別し、ユーザーが定義したターゲットに一致するようにピークレベルを調整します。レベル調整は各イベントの開始前に正確に行われ、イベント中はプラグインのゲインは一定に保たれます。これにより、かつてない透明性が確保され、オーディオのトーン、音色、ローカルダイナミクスはそのままに、トラックの音量をマクロレベルで強力にコントロールできます。

ほとんどの場合、M-Leveller Mixを処理チェーンの最初のプラグインとして配置し、ボリュームオートメーションの代替または拡張として使用します。

主な用途 M-Leveler

圧縮前のレベリング：全体的なレベルのバランスをとることで、コンプレッションのためのオーディオトラックを準備し、コンプレッサーの負担を減らすことで、音量のばらつきを管理するのではなく、グループやキャラクターを高めることに集中できるようにします。

音楽制作におけるダイナミックレンジの維持：楽器やボーカルのダイナミックなニュアンスを保ちながらオーディオレベルのバランスをとり、表現力豊かで自然なサウンドを実現します。**一貫したダイアログレベルとダイナミックなニュアンス：**映画、テレビ、ポッドキャストなどで、全体のレベルの一貫性を保ちながら、感情の強調などのミクロなダイナミクスを維持する必要がある場合に、ダイアログのレベリングに使用します。

レベルスパイクを防ぐ：M-Levelerは、歪みのない透明な方法で、あらゆる信号が設定された目標レベル以上に上昇するのを防ぐことができ、スタジオにとって不可欠な安全ツールとなっています。

ポストプロダクションにおけるライブ録音のバランス：各楽器や声の自然なダイナミクスを保ちながら、ミックス全体のレベルバランスをとるために、ライブ演奏のレコーディングを処理する。

ポッドキャストとオーディオブックの制作：オーディオブックやポッドキャストが、ナレーターの声の感情的な表現や微妙なダイナミクスを保ちながら、一貫したレベルで洗練されたサウンドになるようにする。

ヘッドルーム管理の改善：オーディオ全体のレベルを、サチュレーションやディストーション処理で汗をかく場所に合わせ、一貫したハーモニクスとトーンを確保します。

Techivation M-Leveller

特徴

- Target
- Noise Floor
- Display Range
- Waveform display
- Speed
- Mix
- Perceptual Filter Shape
- Peak / Filtered
- Filter
- Match Sidechain
- Mix Assist
- Output
- Gain Adjustment Mode
- Enable/Disable Range Warning
- Internal On-Off Switch
- Presets
- A/B Switch
- Undo-Redo Options
- Scaleable Graphic User Interface (GUI)
- Show/Hide Tooltips
- Internal Menu
- Stereo and Mono

Techivation M-Leveller

特徴

Target

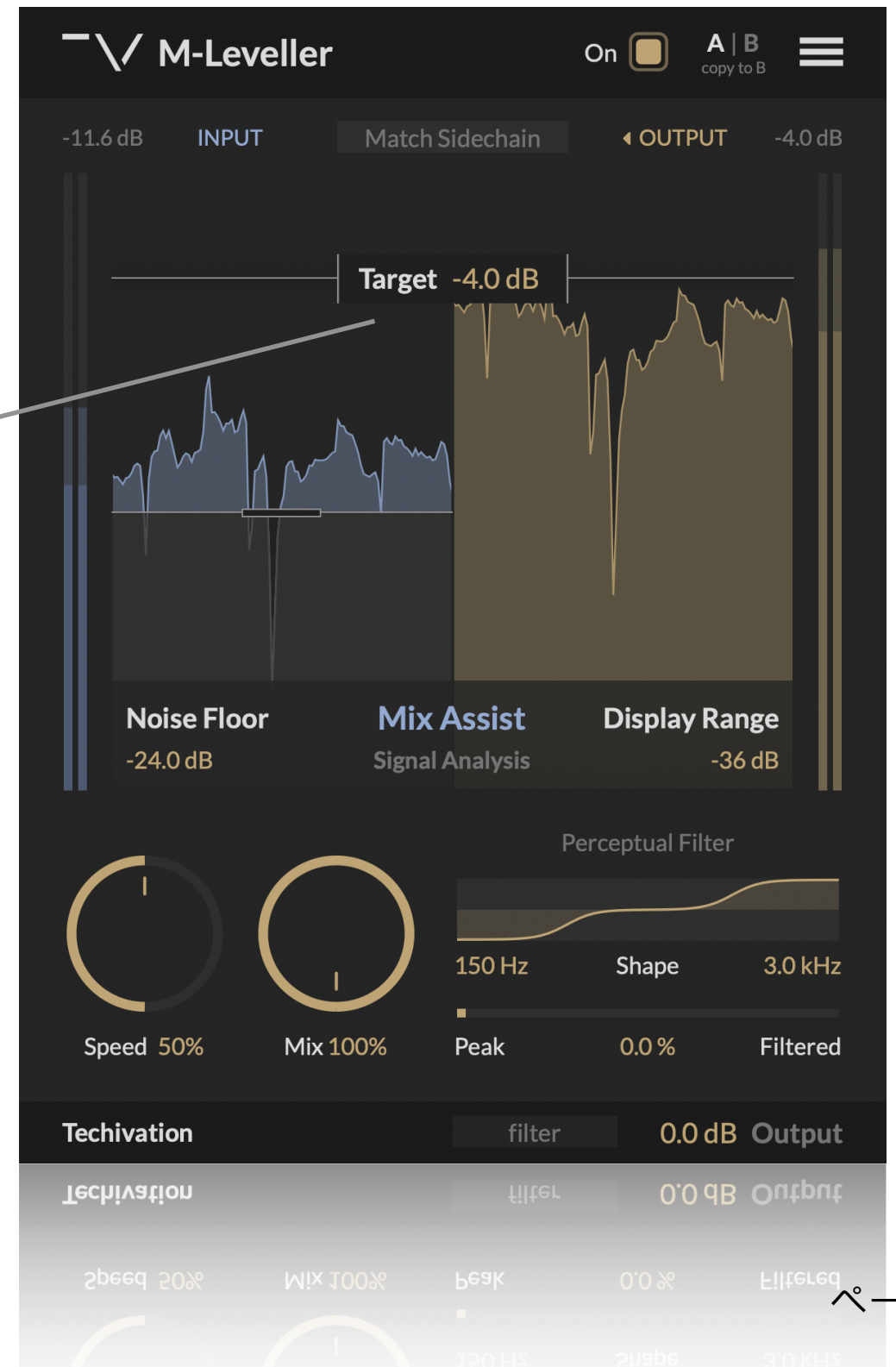
」 Target "レベルはプラグインのメインコントロールです。処理されたオーディオの望ましい出力ピークレベルを dBFS（フルスケールに対するデシベル）で設定します。

Target 「レベルの有効範囲は、現在の」 Display Range "値に依存します。48, -36, -24, -16 dBFSから始まり、+3 dBFSまで設定できます。

注意：「Target」レベルを0 dBFSに近いそれ以上に設定すると、デジタル・クリッピングを引き起こす可能性があります。

Peak/Filtered 「バランスが0%、」 Mix 「が100%、」 Output 「が0.0 dBに設定されている場合、M-Leveller Mixの出力ピークレベルが」 Target "レベルを超えることはありません。

Peak/Filtered 「バランス値が高く、」 Mix 「値が低いと、」 Target "値からの出力レベルの偏差が大きくなります。



Techivation M-Leveller

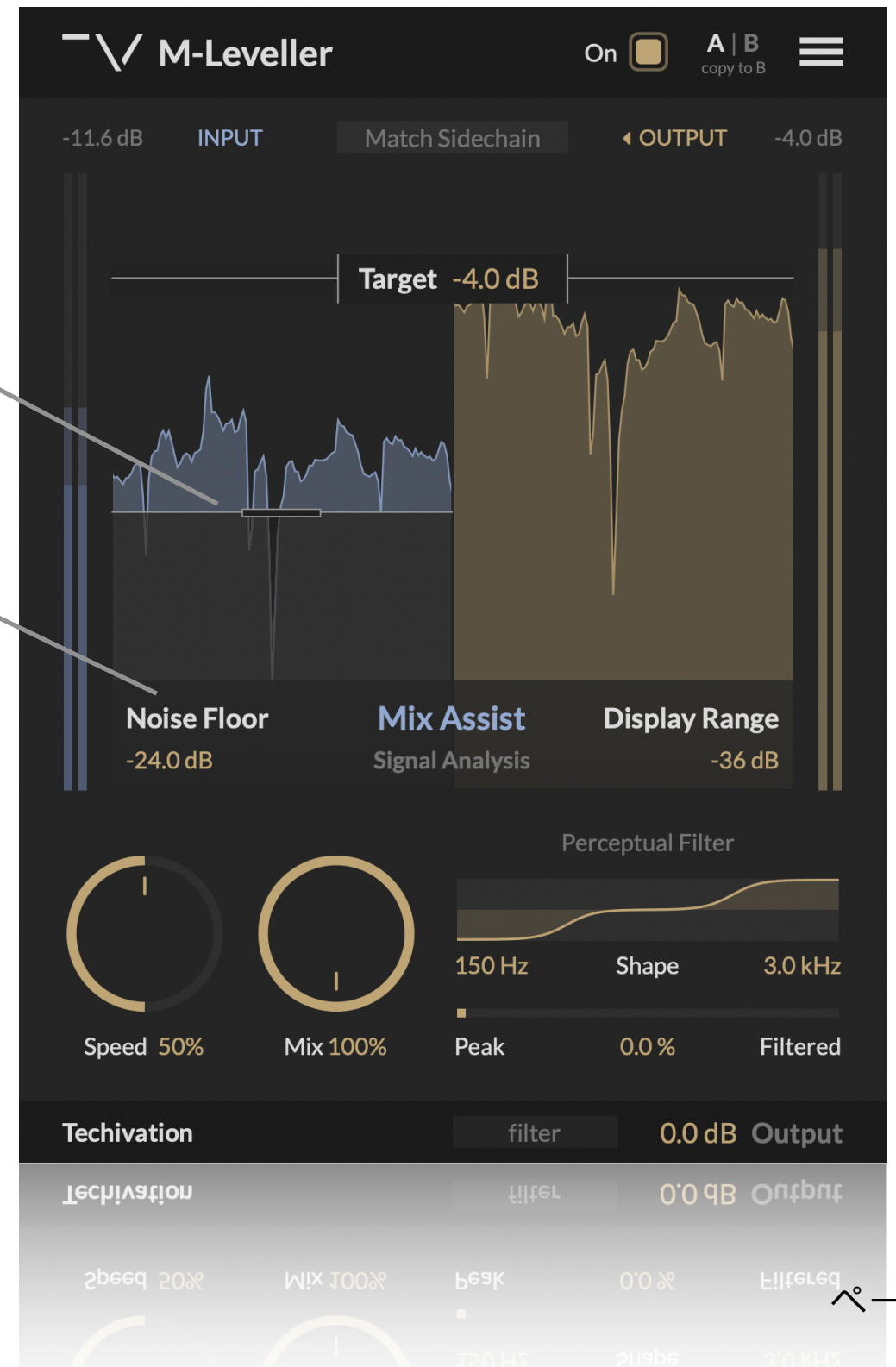
特徴

Noise Floor

「Noise Floor」は、オーディオイベントがレベル合わせされないレベルを設定します。このコントロールは、バックグラウンドノイズ、ブリード、ブレスなどが他のオーディオとレベルマッチングしないようにするために使用します。

入力波形ディスプレイを使って「Noise Floor」レベルを視覚的に設定し、不要なオーディオイベントを下に、意味のあるイベントを上を保つことができます。

Noise Floor 「レベルの設定範囲は、現在の」
Display Range "値に依存します。48, -36, -24, -16
dBFSから始まり、+3 dBFSまで設定できます。



Techivation M-Leveller

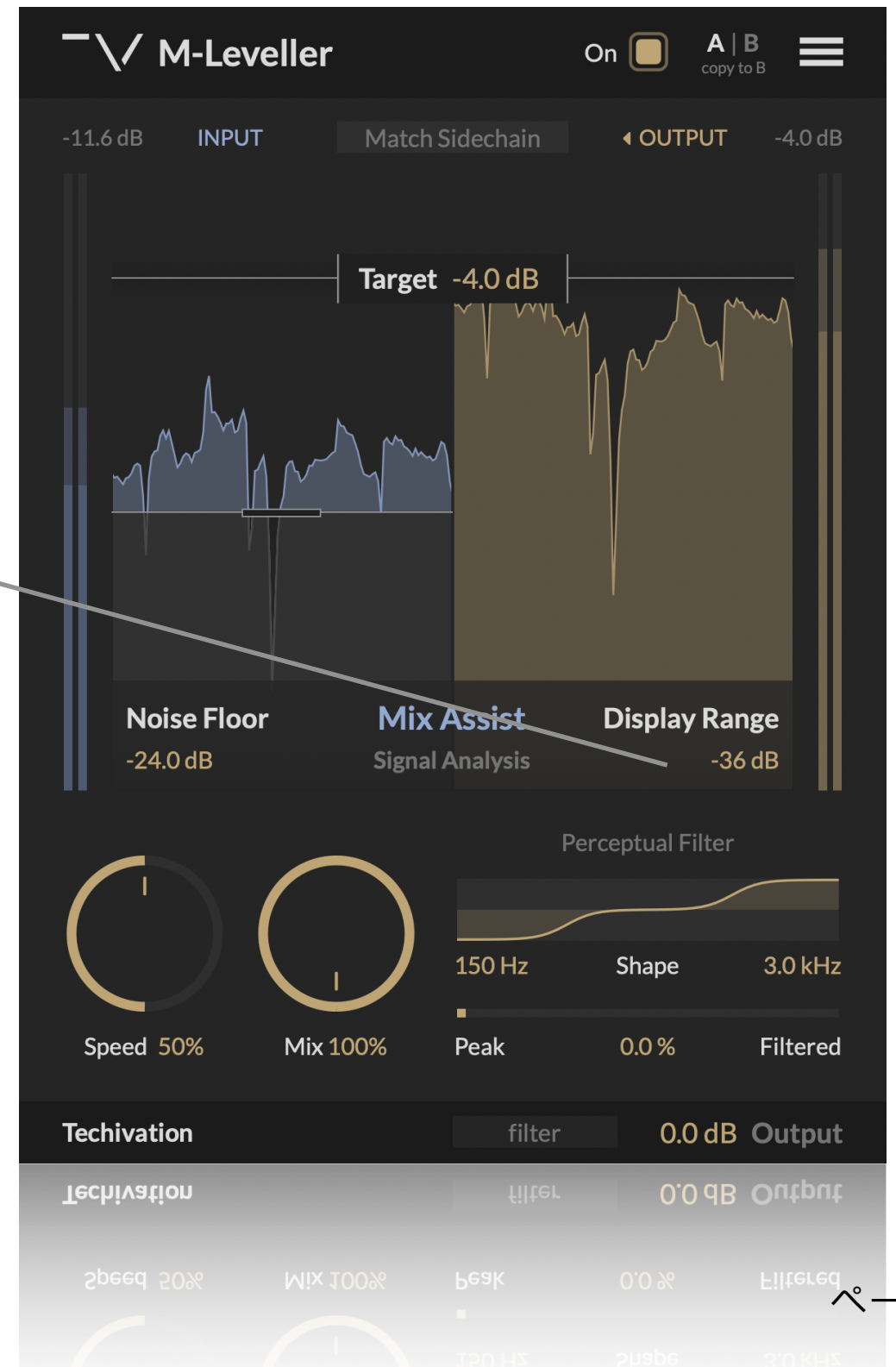
特徴

Display Range

「Display Range」は、波形ディスプレイに表示されるレベルの範囲を制御します。最大レベルは +3 dBFS に固定され、最小レベルは -48、-36、-24、または -16 dBFS に設定できます。

Display Range 「値は、」 Target 「と」 Noise Floor "で
使用可能な範囲も制御します。

プラグインが入力信号を検出しても、現在の「Display Range」設定ではレベルが低すぎて波形ディスプレイに表示できない場合、範囲を広げるよう促す警告が表示されます。この警告は、メイン・プラグイン・メニューの「Disable Range Warning」オプションで無効にすることができます。



Techivation M-Leveller

特徴

Waveform display

「波形表示」は、過去2秒間の入力レベルと出力レベルの履歴を視覚的に表示します。ディスプレイの左半分は入力レベルを青色で表示し、右半分は出力を金色で表示します。

このディスプレイは、オーディオ波形に対するプラグインの効果を確認しながら、「ターゲット」と「ノイズフロア」のレベルを設定するための明確で便利な方法を提示します。

波形ディスプレイの右上にある「OUTPUT / DIFF」ボタンは、ディスプレイの右半分の機能を切り替えます。OUTPUTモードでは、右側のメーターと波形ディスプレイにプラグインの出力レベルが表示されます。DIFF（ディファレンス）モードでは、右側のメーターと波形ディスプレイに、信号に適用されたゲインの量が表示されます。



Techivation M-Leveller

特徴

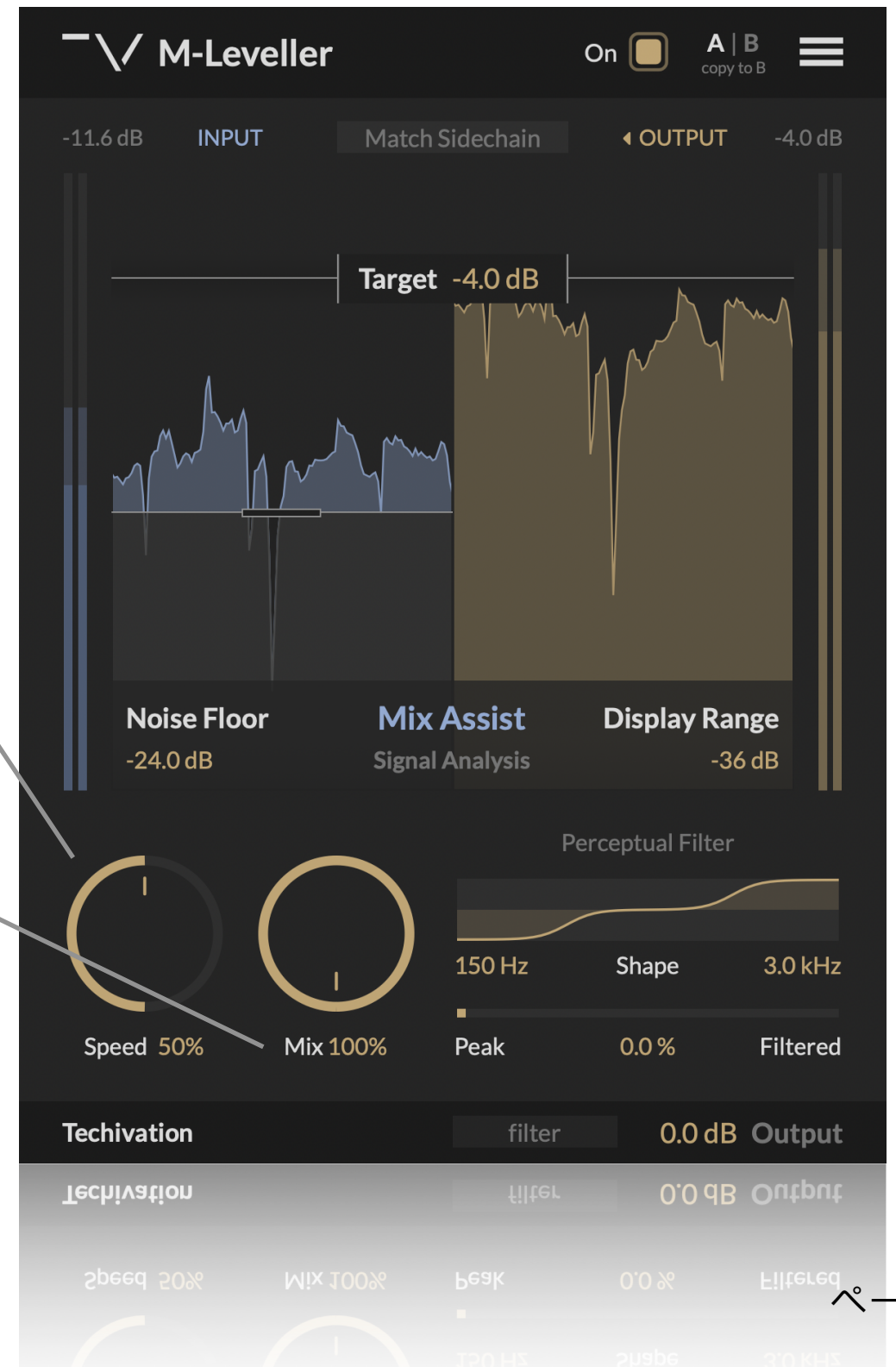
Speed

「Speed」はレベラーの反応速度をコントロールします。内部的には、M-Leveller Mixが検出するイベントの長さを決定します。「Speed」値が高い場合、プラグインは個々の音符やパーカッシブなヒットなどをレベリングし、「Speed」値が低い場合、音楽フレーズ全体をレベリングします。

Mix

「Mix」パラメータは、レベラーのゲインがオーディオに適用される量をコントロールします。このコントロールを使って、パラレル・コンプレッションの原理と同様に、オーディオの元のレベル変動をある程度維持することができます。

注意：「Mix」を100%以下に設定すると、レベラー出力は「Target」レベルに正確に到達しません。



Techivation M-Leveller

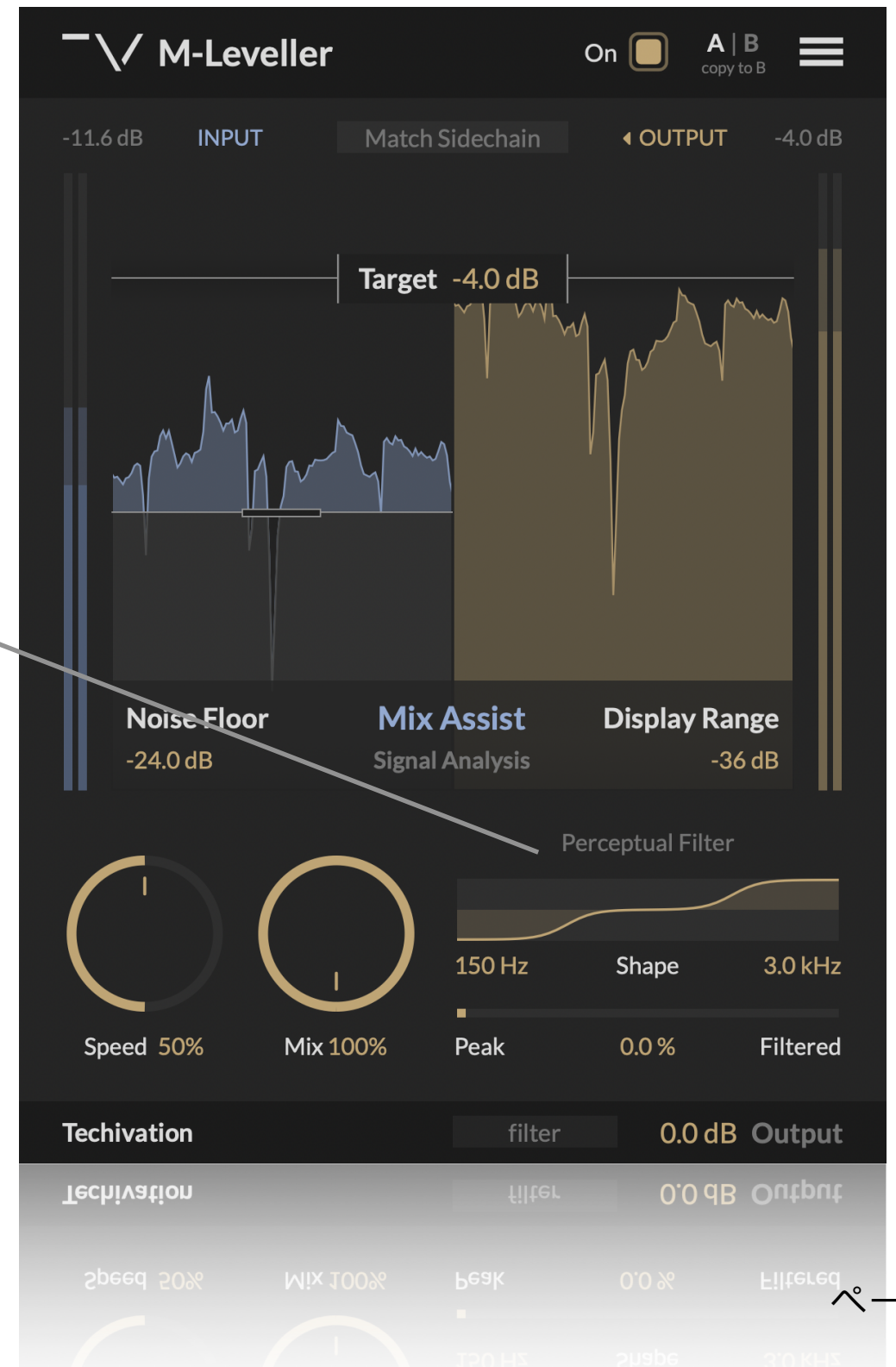
特徴

Perceptual Filter

デフォルトでは、M-Leveler Mixはトラックのピークレベルに基づいて動作します。しかし、ピークレベルは、私たちがオーディオのラウドネスをどのように感じるかを、必ずしも代表するものではありません。人間の聴覚は本来、高い周波数に敏感で、低い周波数には鈍感です。つまり、同じピークレベルの高周波ノイズと低周波ノイズは、人間の耳には異なるラウドネスとして知覚される可能性があります。

これを考慮し、M-Leveler MixはオプションのPerceptual Filterを搭載しています。このフィルターは、プラグインの低域に対する感度を下げ、高域に対する感度を上げることができます。Perceptual Filterを使用することで、様々な周波数を含むトラックを、人間の耳にとってより一貫性のあるサウンドにレベリングすることができます。

レベリングした信号の低域が小さすぎたり、高域が大きすぎたりする場合は、「Peak / Filtered」バランススライダを「Filtered」方向に動かします。



Techivation M-Leveller

特徴

Shape

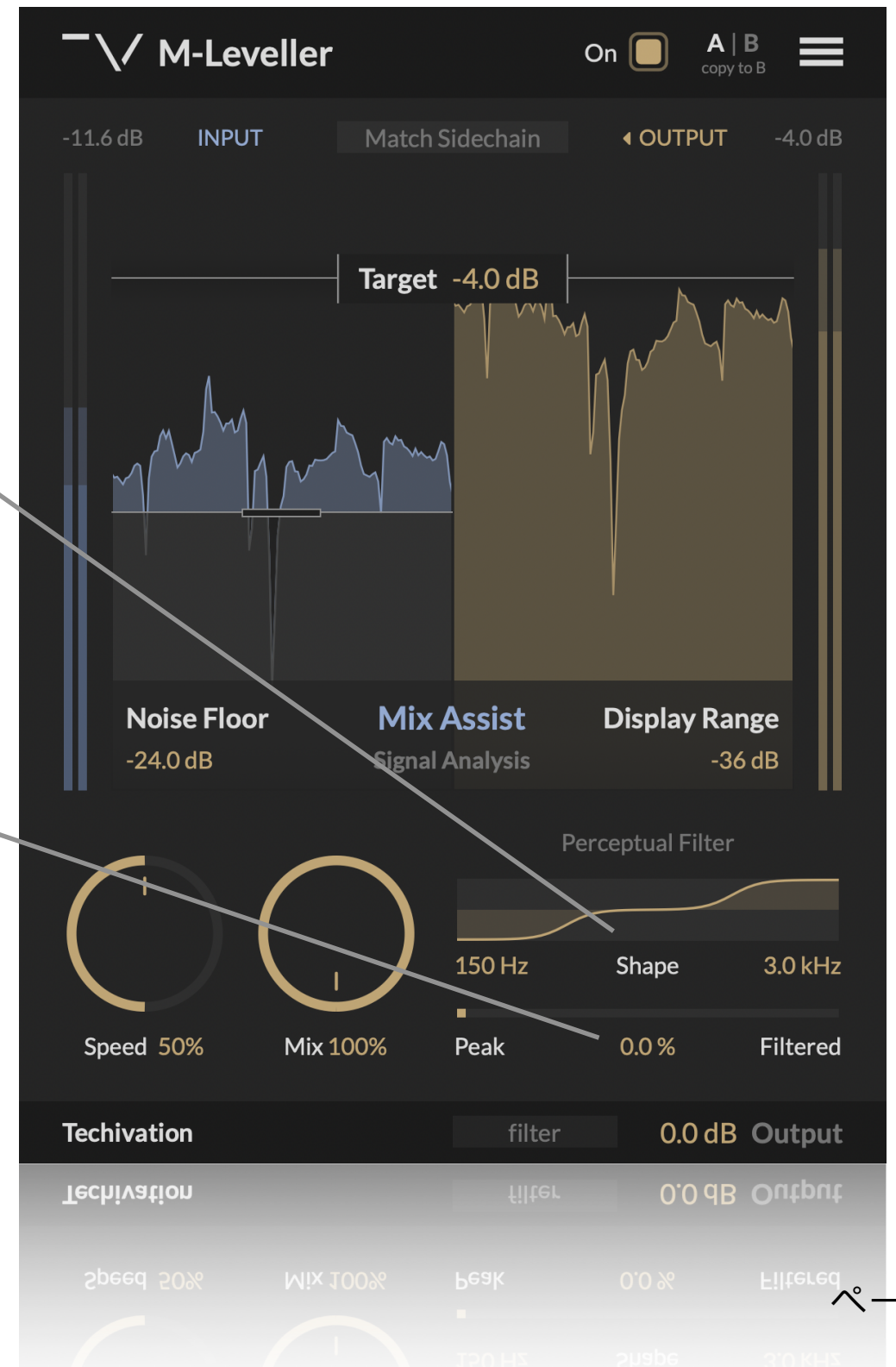
Perceptual Filterセクションの「Shape」コントロールでは、フィルターのローカットとハイブーストの周波数を設定できます。これにより、M-Leveler Mixの感度をオーディオに合わせて正確に調整することができます。

Peak/Filtered

Perceptual Filterセクションの「Peak / Filtered」コントロールは、レベリング時にフィルタを適用する量を決定します。0%では、プラグインは純粋にピークレベルに基づいてレベリングを実行します。値を高くすると、M-Leveler Mixの感度が「Shape」設定に従って調整され、より人間の知覚に近くなります。

注意：「Peak / Filtered」バランスが0%以上に設定されている場合、レベラー出力は常に「Target」レベルに正確に到達するとは限りません。

「Filter」ボタンを押すと、知覚フィルターの出力を直接聞くことができます。Shape周波数を設定するのに役立ちます。



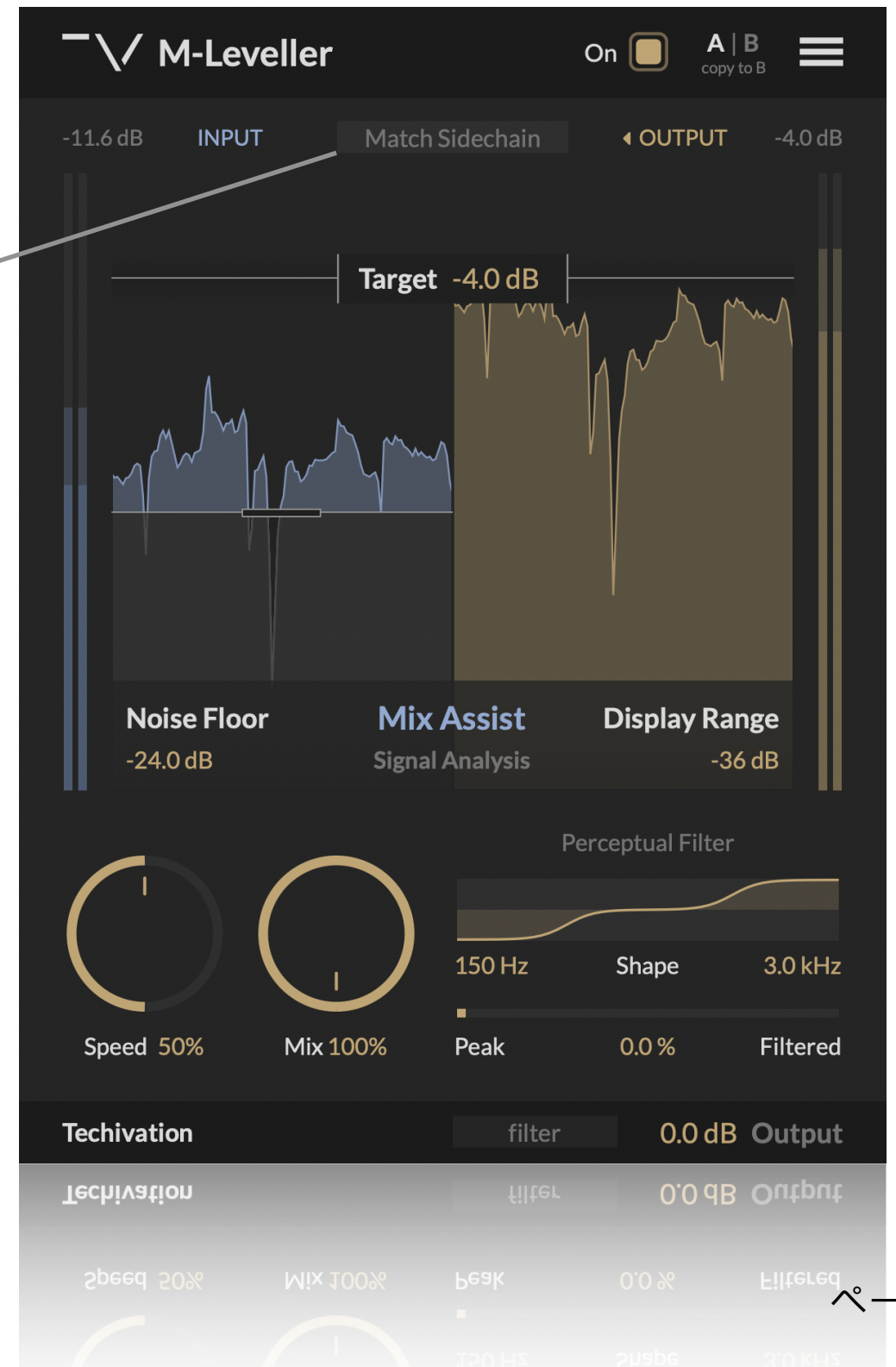
Techivation M-Leveller

特徴

Match sidechain

「Match Sidechain」ボタンを使用すると、手動で「Target」レベルを設定する代わりに、外部信号のレベルに合わせることができます。この機能を利用するには、プラグインへの外部サイドチェーン入力の設定方法について、DAWのマニュアルを参照してください。Match Sidechain「が有効になると、」Target「レベル・スライダーの名前が」Match「に変わり、外部サイドチェーン入力のレベルに追従し始めます。」

プラグインの「Output」コントロールを使って、M-Leveller Mixの出力レベルを外部サイドチェーンの「Match」ターゲットからオフセットすることができます。この機能の一般的な使用例は、トラックのインストゥルメンタル・サブミックスをボーカル・トラックのM-Leveller Mixインスタンスのサイドチェーン入力にルーティングすることです。こうすることで、ボーカルが常にミックスのトップに留まるようになります。この場合、メインプラグインメニューの「Gain Adjustment Mode」を「Boost Only」に設定し、インストゥルメンタルのサブミックスが小さくなくてもボーカルが減衰しないようにするのがベストでしょう。



Techivation M-Leveller

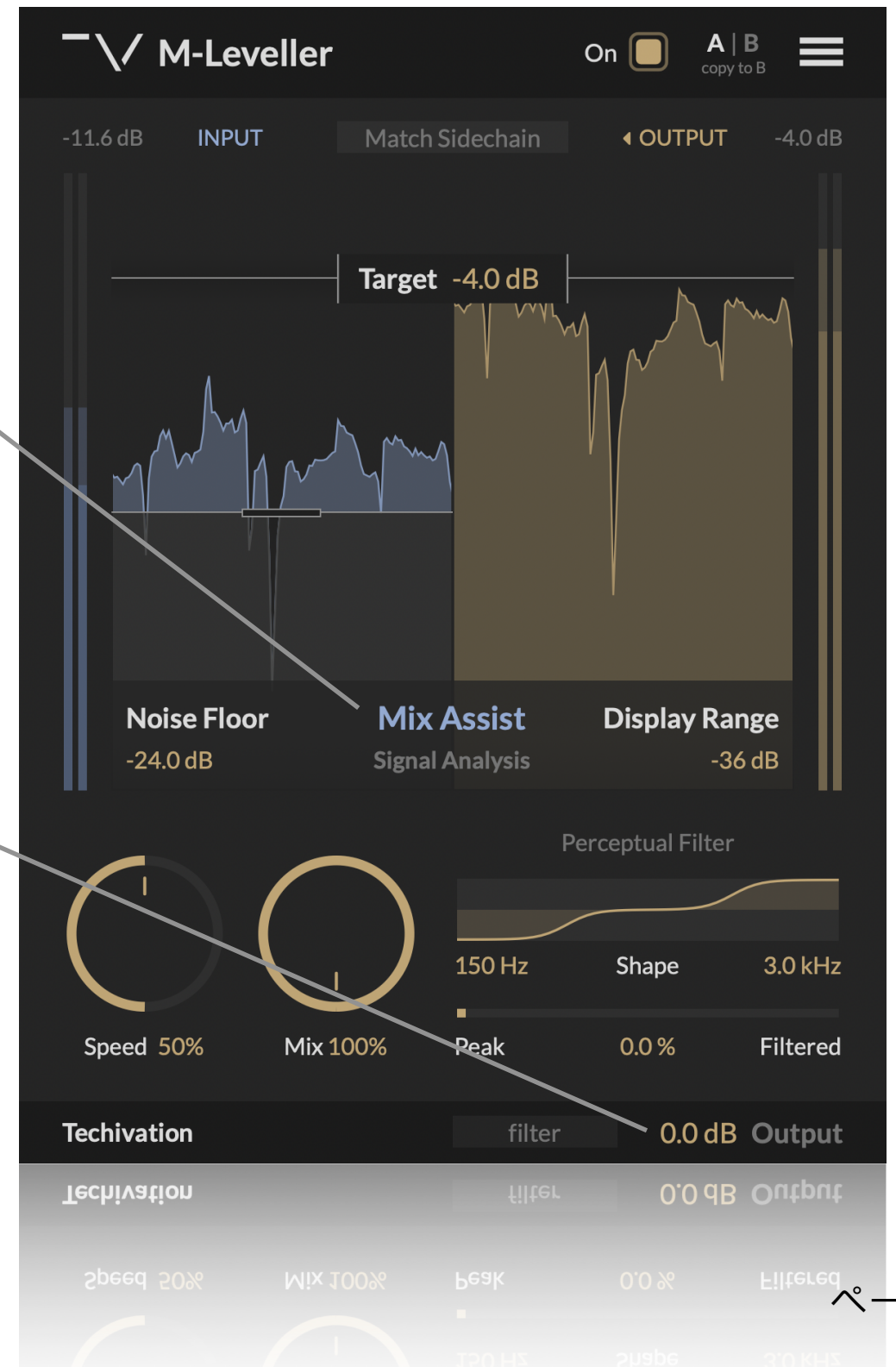
特徴

Mix Assist

「Mix Assist」ボタンを押すと、プラグインが入力をキャプチャして分析し、処理パラメーターをインテリジェントに設定します。M-Leveller Mixは、分析のために3.5秒間のオーディオをキャプチャします。最良の結果を得るために、学習時にはトラックの最も忙しい部分を再生するようにしてください。

Output

「Output」パラメーターは、処理された信号に適用されるクリーンゲインの量をコントロールします。



Techivation M-Leveller

特徴

Gain Adjustment Mode

プラグインのメインメニューにある「ゲイン調整モード」オプションで、M-Levellerが「ターゲット」レベルに到達するために、ブースト（レベルを上げる）、カット（レベルを下げる）、またはその両方を行うかどうかを選択できます。

Enable/Disable Range Warning

プラグインのメインメニューにあるこのオプションは、現在の「Display Range」設定において、入力レベルが低すぎて表示できない場合の警告を無効にすることができます。



Techivation M-Leveller

特徴

チップ

M-Levelerは「Safety Limiter」として使用することができ、オーディオレベルが設定された目標値（例：-1 dBFS）を超えた場合、出力ゲインを下げますが、それ以外の場合は信号の影響を受けません。

これを行うには、「Safety Limiter」の工場出荷時のプリセットを使用するか、プラグインのパラメーターを以下のように設定します。Peak / Filtered 「バランスを0%、」 Mix 「を100%、」 Output "を0.0 dBに設定し、プラグインをピーク・レベリングに設定します。

Target 「と」 Noise Floor" のレベルを同じ値、例えば -1 dBFS に設定します。これは、オーディオが超えてはならないレベルになります。Noise Floor 「を」 Target 「と同じ値に設定することで、オーディオレベルが」 Target "レベルを超えない限り調整されないようにします。

Techivation M-Leveller

特徴

プリセット

このプラグインは、既存のプリセットを読み込むだけでなく、右上にあるメニューを使って独自のカスタムプリセットを作成・保存することもできます。

この機能により、特定のミキシング・ニーズに合わせた様々な設定に素早くアクセスして適用することができ、ワークフローを合理化し、オーディオ処理タスクに一貫した出発点を提供します。

さらに、独自のカスタムプリセットを保存することで、異なるプロジェクト間で好みの設定を簡単に呼び出すことができ、オーディオ制作への一貫した効率的なアプローチを保証します。

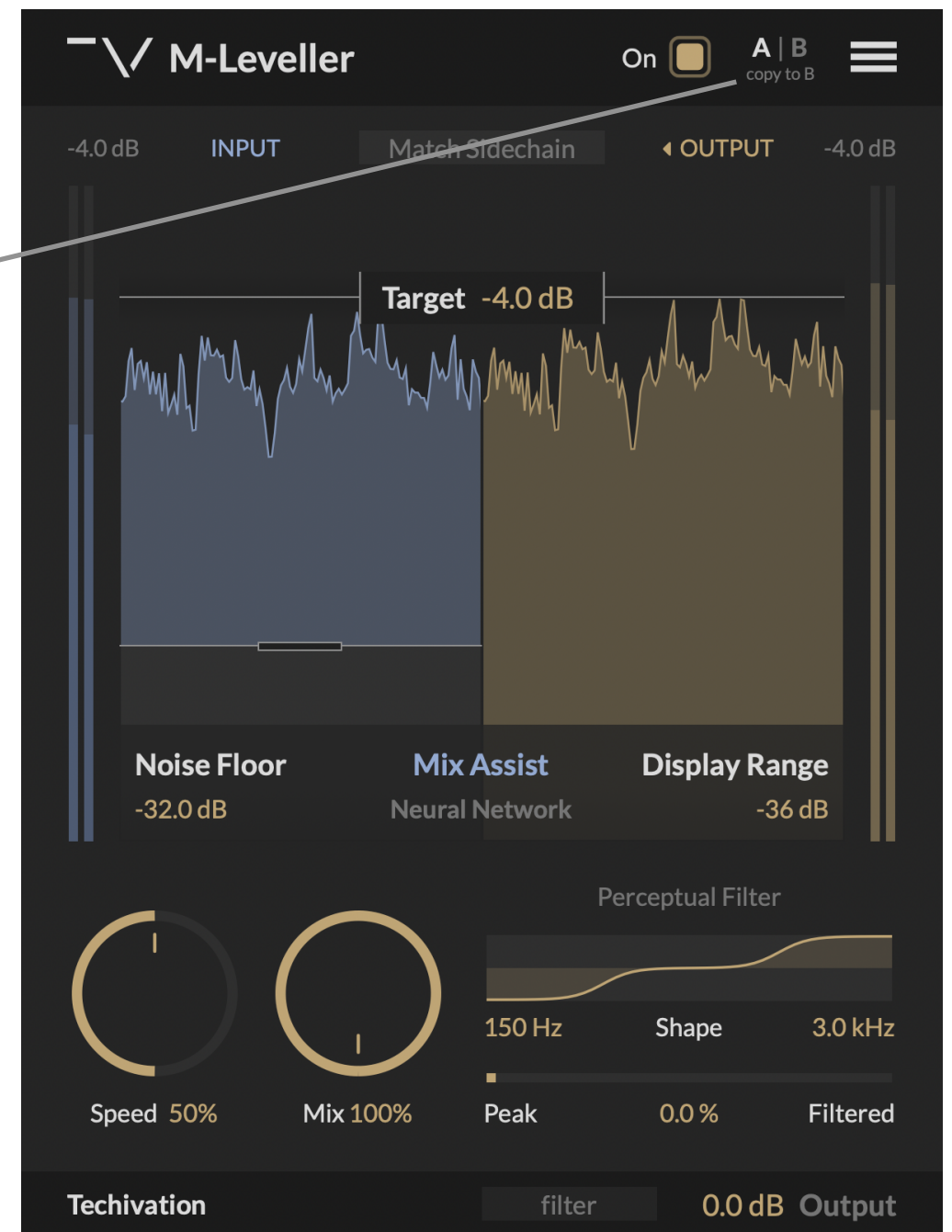
Techivation M-Leveller

特徴

A | B Comparison

A/Bボタンは、異なるオプションを比較し、オーディオ処理のニーズに最適な設定を見つける便利な方法を提供します。クリックするだけで、同じプロセッシング・チェーンの2つの異なるバージョンを簡単に切り替え、結果を比較することができます。さらに、「Copy A to B」と「Copy B to A」機能により、1つのバージョンからもう1つのバージョンに設定をコピーし、その効果を比較することで、小さな微調整や調整を素早くテストすることができます。

A/Bボタンと「コピー」機能を併用することで、処理の微妙な変化を効率的に評価し、最適なアプローチについて十分な情報に基づいた判断を下すことができます。この合理化されたワークフローは、時間と労力を節約し、技術的な詳細に煩わされることなく、ミックスのクリエイティブな側面に集中することができます。



Techivation M-Leveller

特徴

Undo/Redo

M-Levellerプラグインは、内蔵の「Undo」と「Redo」オプションという便利な機能を装備しており、オーディオ処理中にさらなる安心を提供します。これらの機能により、簡単に以前の設定に戻したり、誤って行った変更をやり直すことができ、時間を節約し、貴重な調整を失う可能性のあるストレスをなくすことができます。

元に戻る「と」やり直し"オプションを使えば、オーディオを永久に変えてしまう心配をせずに、さまざまな設定や構成を試すことができます。さらに、この機能は、バックトラックや別の処理経路を探索する効率的な方法を提供することで、ワークフローを向上させ、オーディオ制作において、より多くの情報に基づいた意思決定を可能にします。

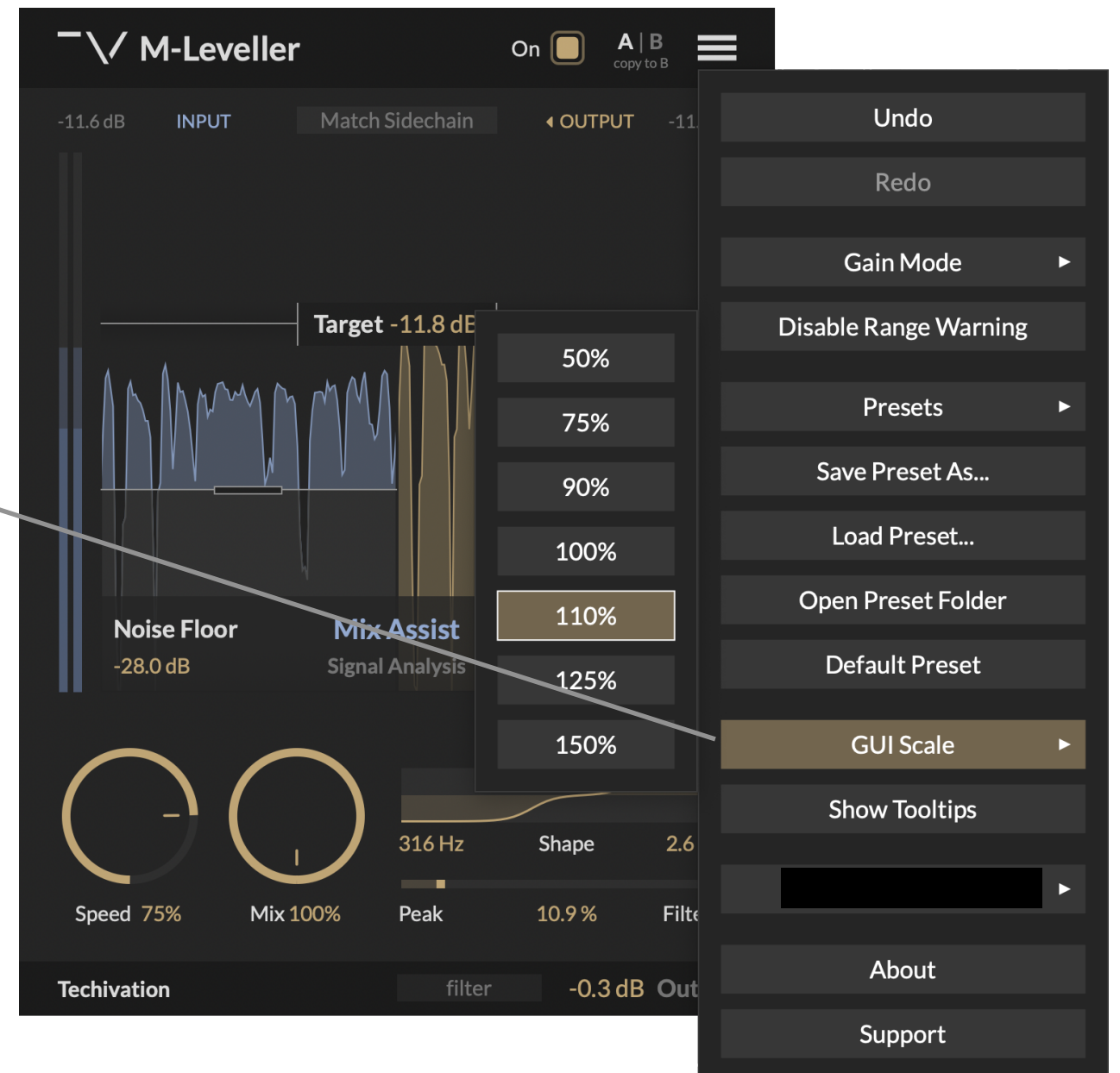


Techivation M-Leveller

特徴

GUI Scale

M-Levelerのインターフェイス拡大縮小機能により、好みに合わせてGUIのサイズをカスタマイズし、ワークフローを最適化することができます。50%から150%の範囲で利用可能なスケーリングオプションにより、あなたのビジュアルや作業スタイルに合わせてインターフェイスをパーソナライズすることができます。この機能の優れた点の1つは、選択したスケールに関係なく、プラグインのビジュアル品質が一貫して保たれることです。このため、好みの表示サイズに合わせて拡大・縮小しても、インターフェイスはクリアで読みやすいままです。さらに、M-Levelerのインターフェイス拡大縮小機能は、網膜ディスプレイを含むハイエンド品質のモニター用に最適化されており、プラグインが様々なデバイス上で美しく見え、確実に動作することを保証します。



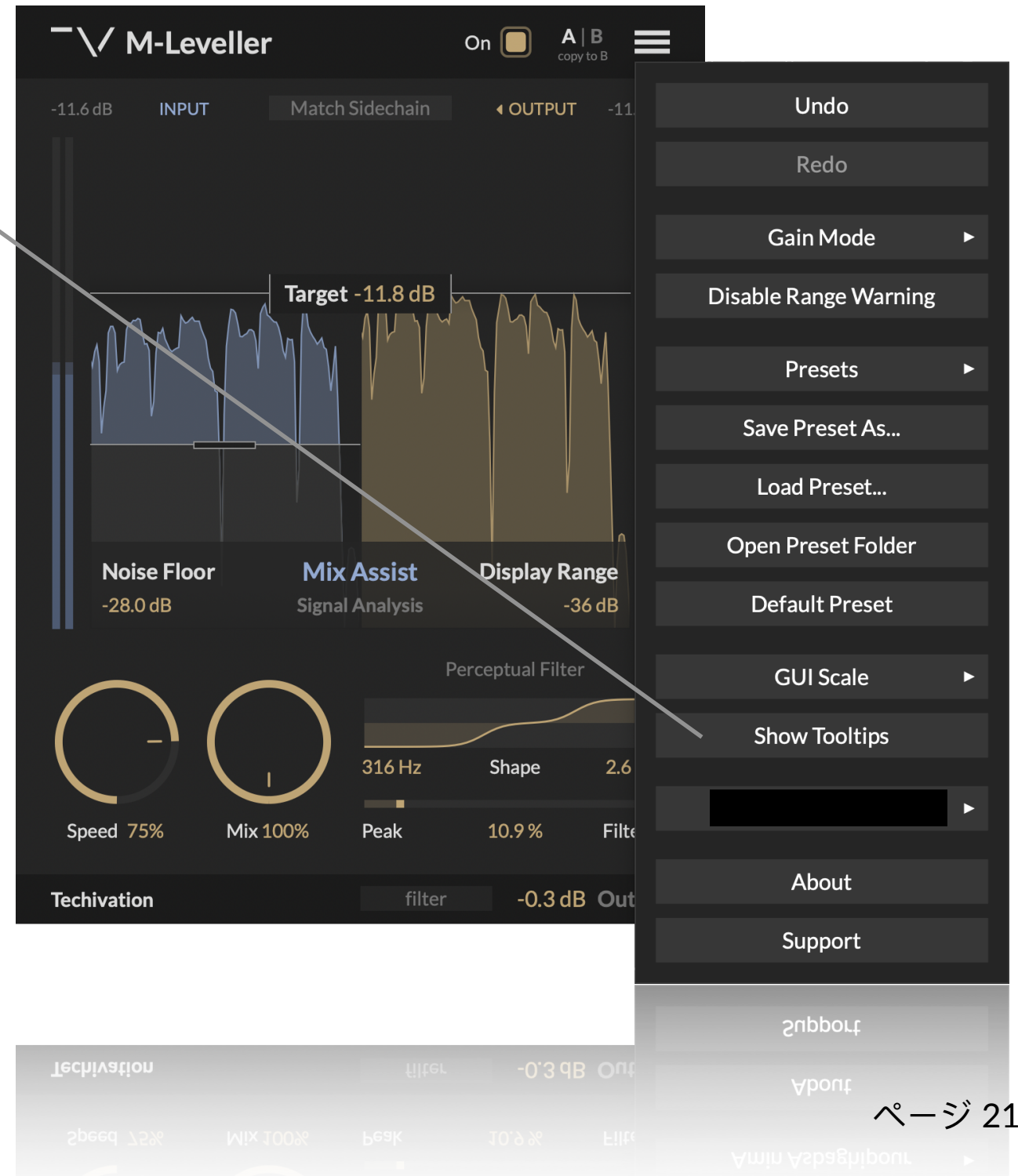
Techivation M-Leveller

特徴

Tooltips

M-Levellerは、プラグインのメニューから有効または無効にできる便利な「ツールチップ」オプションを備えています。このオプションを有効にすると、ユーザーインターフェースの各セクションの上にマウスを置くだけで、その簡単な説明を見ることができます。ツールチップは、プラグインの様々なコントロールや設定について素早く知るための優れた方法です。

各パラメータの機能、範囲、オーディオ信号への影響など、役立つ情報を提供します。ツールチップオプションを有効にすることは、ワークフローをスピードアップし、M-Levellerプラグインでの作業を容易にする素晴らしい方法です。特定のコントロールが何をするのか分からない場合、マウスをその上に置くだけで、素早く有益なツールチップが表示されます。



Techivation M-Leveller

特徴

Plug-in Menu

便利な機能のクイックメニュー：

- Undo
- Redo
- Gain Mode
- Disable/Enable Range Warning
- Presets
- Save Preset As...
- Load Preset...
- Open preset folder
- Default Preset
- GUI Scale
- Show/Hide Tooltips
- [Your email]/Sign in
- About
- Support



Techivation M-Leveller

互換性

プラグインのフォーマット：VST, VST3, AU, AAX.

対応プラットフォーム：Mac OS X 10.15 (Catalina) or higher
Intel processors, and Apple Silicon Chips.
Windows 7 and up. 64 bits.

対応DAW：Ableton Live Ableton Live、Logic Pro、Avid
Protools、FL Studio One、Cubase、Nuendo、Reaper、その他
市販の主要DAWソフトウェア。

アクティベーション

M-Levellerは、弊社のウェブサイトから購入したライセンスが必要です。あなたが弊社からライセンスを購入するとすぐに、プラグインにサインインした後、あなたのTechivationアカウントが自動的にプラグインを有効化します。1つのライセンスを購入された方は、同時に最大2台のマシンでプラグインを使用することができます。

サポート

サポートに関するお問い合わせは、techivation.com/supportをご覧ください。

権利の詳細については、techivation.com/terms-conditionsをチェックしてください。

ご不明な点がございましたら、Eメール info@techivation.com または techivation@gmail.com までお気軽にお問い合わせください。

インストール

M-Levellerのライセンスを購入すると、プラグインにサインインしてアクティベートすることができ、生涯使用することができます。

ソフトウェアのダウンロードはサインアップ/購入時に提供されますが、Techivation.comでいつでも最新のソフトウェアアップデートを入手することができます。

ダウンロード後、ファイルを解凍し、お使いのシステムに応じてMacまたはPCのインストーラを選択してください。(警告: Mac上でPCのファイルを実行したり、その逆はしないでください)。

- **Mac**：PKGインストーラーをダブルクリックします：PKGインストーラーをダブルクリックし、指示に従ってください。
- **PC/Windows**：ファイルの内容を解凍します。セットアップファイルをダブルクリックし、指示に従ってください。

Techivation M-Leveller

アンインストール場所

MAC OS

AU: /Library/Audio/Plug-ins/Components/

VST: /Library/Audio/Plug-ins/VST/

VST3: /Library/Audio/Plug-ins/VST3/

AAX: /Library/Application Support/Avid/Audio/Plug-Ins/

その他のデータ: ~/Library/Application Support/Techivation

WINDOWS

VST: Custom path from installer

VST3: \Program Files\Common Files\VST3\

or \Program files(x86)\Common Files\VST3

AAX: \Program Files\Common Files\Avid\Audio\Plug-Ins\

その他のデータ: C:\ProgramData\Techivation 「注意：このフォルダーは隠しファイルなので、まず隠しファイルを見るように設定を変更する必要があります。」